

# UNIT 1～4の4ステップで実施できる防犯教育【燕市立吉田南小学校】

ねらい

誰もが「入りやすい」、誰からも「見えにくい」という、危険な場所を見極める景色の見方を学び、調べたことを地域安全マップにまとめ、自分の生活に活かすことができる。

## UNIT 1 知る（2時間）

タイトル 犯罪が起こりやすい「危険な場所」はどんな場所か知ろう

ねらい（学習目標）

1. 犯罪、特に誘拐が起こりやすい「危険な場所」の景色の見方を知る。
2. 学習計画を立てる。



## UNIT 2 調べる（1時間・課外）

タイトル 通学路や自分の地域で、「危険な場所」はあるか調べよう

ねらい（学習目標）

1. 実際に、校区内のいくつかの地域をフィールドワークで巡り、景色の見方を確かめる。
2. 通学路や自分の住んでいる地域の危険な場所を調べ、撮影する。（課外）



## UNIT 3 気付く（3時間）

タイトル 地域安全マップを作ろう

ねらい（学習目標）

1. 撮影した写真を互いに見合い、景色に着目しながら危険かどうか検討する。（学習参観）
2. 仲間と交流したことをもとに、グループで各地域の、地域安全マップを作成する。

## UNIT 4 伝える（2時間）

タイトル 地域・全校のみなさんに伝えよう

ねらい（学習目標）

1. 作成した地域安全マップの内容を伝える方法を話し合い、準備をする。
2. 保護者、地域の方を招待し、発表会をする。校内に掲示し、全校に発信する。



## 児童生徒の姿（成果）

「危険な場所」として児童が撮影した写真はキーワードを踏まえたものが多かった。児童は、地域の「町づくり協議会」及び保護者の方々と一緒に「危険な場所」を調べて伝え合い、マップにまとめていく学習に、意欲的に取り組んだ。発表会の様子からは「不審者は見かけでは分からない」ことに気付き、「入りやすく見えにくい」という分かりやすいキーワードをもとに、景色を見たことが伝わってきた。身近な大人と一緒に地域の「危険な場所」を考えたことが、児童の意欲につながり、理解を深めた。